

平成26年 5月15日

各 位

上場会社名 株式会社スーパー大栄
代 表 者 代表取締役社長 中山 勝彦
(コード番号 9819)
問合せ先責任者 常務取締役管理本部長 阪本 博美
(T E L 093-602-2770)

平成26年 3月期通期業績予想値と実績値との差異及び 特別損失(減損損失)の計上に関するお知らせ

平成25年11月12日に公表した平成26年 3月期通期業績予想値と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、平成26年 3月期において、特別損失を計上いたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 平成26年 3月期通期業績予想値と実績値との差異(平成25年 4月 1日～平成26年 3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 発 表 予 想 (A)	23,000	10	△10	△50	△6.95
今 回 実 績 値 (B)	23,008	9	△19	△118	△16.12
増 減 額 (B-A)	8	△0	△9	△68	
増 減 率 (%)	0.0	△5.7	—	—	
(ご参考) 前 期 実 績 (平成25年 3月期)	23,853	125	103	85	11.87

2. 差異の理由

小売業界におきましては消費者の低価格志向・節約志向は定着化し、競合店との価格競争は激化の一途を辿り、収益環境はますます厳しい状況が続きました。

なお、景気は次第に回復基調にあるものの、消費税増税後の反動減や原材料の高騰及び水道光熱費の値上げなどの不安材料も懸念され、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社では店舗活性化策として、買い物しやすく、お年寄りにやさしい売り場づくりに重点を置き、6店舗を改装、集客力のアップに努めてまいりました。また、収益力向上策としては経費削減と効率化を徹底し、ローコスト経営を堅持してまいりました。しかしながら、当社の基幹店舗の商圈に競合店が進出した上、業態間を越えた熾烈な価格競争の影響を受け改装の効果を出すまでには至りませんでした。

上記の理由により、平成26年 3月期につきましては、売上高、営業利益は、ほぼ前回発表予想のとおりとなりましたが、経常損益につきましては前回発表予想を9百万円下回り19百万円の経常損失となりました。また、当期純損益につきましては、固定資産の減損損失が響き前回発表予想を68百万円下回り118百万円の当期純損失となりました。

3. 特別損失の計上

当社の固定資産について、現在の事業環境を踏まえ個別にその投資額の回収可能性を判断した結果、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき減損処理を実施し、平成26年3月期において、減損損失72百万円を特別損失として計上することになりました。なお、本件につきましては、本日公表いたしました「平成26年3月期 決算短信」に反映しております。

(注)上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により上記予想数値とは異なる結果となる場合があります。

以 上